

**フレッシュマン・オカザキのインド通信****世界最後の秘境がインドにあった…！！**

お世話になっております！弊社は決算月を迎え、わたしは溜めていた精算処理でバタバタとしております。事務処理があまり得意でない私は、あれの経費はどうした！？精算まだやらないか！と尊敬する S先輩 にどやされ。。。どこが遠くの島へ行きたいな～なんて思った矢先！

**見つけてしまいました。世界最後の秘境！**

そしてそれは私の第二の故郷(?) インドにあったのです！  
その名も…

**北センチネル島(North Sentinel Island)**

島はインド東海岸・ミャンマーの南西に位置し、約 72 平方キロメートルのほぼ正方形でサンゴ礁に覆われています。2004 年のスマトラ島沖地震の影響で砂浜が狭くなり、島全体はほとんど森に覆われているので、上空からでは島の様子を確認することが困難になっています。



1947 年以降、インドの連邦直轄領に属していることになっています。そして、島には先住民でありセンチネル語を話す**センチネル族(Sentinelese)**が居住しており、アフリカ大陸から移り住んできた直系の子孫だと考えられています。この小さな島に、約 6 万年前から住んでいるのです。島の正確な人口は不明でおおよそ 40~500 人と推定されています。彼らの生活様式で唯一分かっていることは、狩猟で生活していることで、農業は行っていないよさだということのみです。野生の果物や根菜類、フタ、トカゲ、蜂蜜を採取して生活しているようです。

そして彼らの最大の特徴は、よくテレビなどで目にするアフリカの原住民族達とは違い、**現代文明を有さず、他民族との接触を拒否していることです。**

インド政府は島民といかなる条約も結んだことがありません。近代的兵器を装備するインド海軍に対しても矢の雨を浴びせるなどして接触を断固拒否。インド政府も干渉することを諦め、現在は実質的にセン千ネル族の主権が認められています。スマトラ島沖地震に際しては、救援物資輸送のヘリコプターに対し、矢を放ちました。また、2006年、カニの密漁をしていたインド人2人が、寝ている間にボートが流され北セン千ネル島に漂着した際、**二人は矢で射られ殺されてしまいました。**インド政府が2人の遺体を回収しようとヘリコプターで向かいましたが、矢の雨が待ち構えており、遺体の回収はなされませんでした。。



↑ 全身を赤く塗っている…?



↑ ヘリコプターを威嚇するセン千ネル族

また、インド政府は幾度となく友好的な話し合いのため彼らとの接触に挑んできましたが全て失敗に終わり、ついには島民の意思を尊重し北セン千ネル島への干渉から手を引きました。そしてこうした背景から、インド海軍は北セン千ネル島沿岸の3マイル以内に近づくことを違法とし、探検家やバックパッカーたちが島に入らぬよう巡回しているとのこと。

これが一番の得策のように思えますね…外部の世界に依存しない完全に独立した社会を形成するセン千ネル族。今では世界中に多くの北セン千ネル島ファンがあり、日々島の情報や彼らの生き方について熱い議論が交されているようです。北セン千ネル島の情報は英語からフランス語、スペイン語、中国語までそのニュースやコラムなどが拡散し、「[northsentinelisland.com](http://northsentinelisland.com)」という専門サイトまであります。しかし、北セン千ネル島に対する認知度が広まるにつれ、彼らの種としての存続が危ぶまれる可能性があるともいわれています。それは抗生物質の発達にともない耐性が強化された現代のウィルスなどによる疫病が、外部との接触により広まってしまいう危険性があるからです。つまり北セン千ネル島民の外部世界に対する断固とした拒否反応は、自身の種の存続を守るために当然の事なのです。どんなに平和的に接触を求めてくる外部の人間も、彼らにとっては大きな脅威になり得るようです。

私は調べていてどんどん興味が湧き、行ってみたい！なんて思ってしまいました。浅はかな考えでした。。



# 韓国材特集！

一昔前、一世を風靡していた韓国材が今再び注目を集めています！筆者オカザキはその時代を知りませんが、以前取り扱っていたお得意先様も多いのではないかと思います。

韓国の経済発展に伴う値段の高騰で、弊社も一時は手を引いていた韓国材ですが、現在中国材の値段高騰に加え韓国材の値下がりが始まり、製品としては難しいですが、原石購入は非常に割安感があるものとなっています！今回は前メルマガ担当 Mr.サトー の報告書をお借りして(笑)、いま最もホットな韓国材をご紹介します！

## 【K谷城(高興石: 고흥코판)】

丁場は韓国の南端、フサン市からも遠くない場所に位置しています。現在、建築材としても韓国内外からの需要も多い、中間色の中国で言えば G654 系統の目合いです。A~C 材と品質によりしっかりと区分されており、ブロックの大きさも問題ありません。



## 【抱川石(포천ポーチョン)】

北朝鮮との国境側に丁場があり、ソウル市からも近いです。丁場がいくつかあり、中国の G623 のようなうっすらとしたピンクがかっている堀口から、万成石とまではいかないまでもピンクの色味が強い堀口まであります。韓国建材の王道と言われるまでに広く使われていますが、墓石材としても十分綺麗な石です。来年丁場にレールカット設備が入るようで、ご要望に合わせたサイズで原石を切り出すことができるようになる予定です。



いずれも申し上げた通り、お求め易い価格帯になっています。

詳しくは弊社担当営業員まで。

**そして韓国と言えば…韓国風焼肉、サムギョプサル！！**

あの食通で有名な Mr.サトー をも唸らせた石焼サムギョプサル。是非ご賞味あれ！



あまり知らない石を原石で買うのは怖いなあという方も、**今回ご紹介した韓国石種すべて切削やスラブでの購入も可能です！もちろん現地への丁場見学や買い付けツアーも承っております！**

そして…ご用命あれば…私もご同行… なんでもありません…(笑)

読んで頂き有難うございました。ではまた来月。

2015/10/01 オカザキ